

西条市立小松中学校 研究報告

1 取組の内容

(1) 研究主題

実践的コミュニケーション能力をもつ生徒の育成
～指導法の在り方（確かな受信と豊かな発信）～

(2) 研究の内容

小中高の連携を図ったコミュニケーション能力到達目標に照らし合わせ、段階的な指導法の在り方を考えた。中学では4領域に配慮し、学年ごとの目標を設定し、「聞くこと」「話すこと」と「読むこと」「書くこと」の言語活動の在り方を設定した。

ア 「聞くこと」「話すこと」のコミュニケーション能力を図るための基礎的な言語活動

	クラスルームイングリッシュの活用	一分間トーキング	音読指導	A L TとJ T Eによる言語活動
目標	○ 英語での指示が分かり、予想できる。	○ 基本文を定着させる。 ○ A L TやJ T Eと自然な形で日常会話ができる。	○ 自信をもって音読できる。 ○ 全員が教科書を音読できる。	○ 間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを取ることができる。
1年	○ 基本的な指示 ○ 日常の簡単な会話	○ 既習事項を活用した基礎会話の習得	○ 教科書の丁寧な音読 ○ 音読プリントの活用	○ 会話に欠かせない「相づち表現」の習得 ○ 既習事項を活用した言語活動
2年	○ 基本的な指示 ○ 授業における語句等の英語による説明	○ 既習事項を活用した基礎会話の習得 ○ テーマ別によるトーキング	○ 教科書の丁寧かつ内容に応じたスピードのある音読(ワードカウンター)	○ 既習事項を活用した言語活動
3年	○ 基本的な指示 ○ 授業における語句や文化についての英語による説明	○ テーマ別によるトーキング (Talking map)	○ ペアによる音読	○ 既習事項を活用した言語活動

イ 「読むこと」「書くこと」のコミュニケーション能力向上のための言語活動

	音読指導	表現活動 (English Passport の題材)
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自信をもって音読できる。 ○ 音読を通して、フレーズや言い回しに慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の言いたいことを英語で (A L T に語るつもりで) 書いて伝えることができる。 ○ 英語で表現する喜びを味わうことができる。
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書の丁寧な音読 ○ 音読プリントによる音読 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・学校紹介 ・他己紹介 ・グリーティングカード ・一日の生活 ・日記
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書の丁寧かつ内容に応じたスピードのある音読 (ワードカウンター) ○ 音読プリントによる音読 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 (大切なもの) ・ふるさと (遠足で訪れた場所) ・夏休みの出来事 (日記やスピーチ) ・修学旅行を通してふるさとを伝えよう ・自分の好きな場所 (故郷)
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○ ペアによる音読 ○ 音読プリントによる音読 	<ul style="list-style-type: none"> ・小松のいいところ紹介

ウ 小・中・高の連携を図った活動の推進

- 小・中・高それぞれの授業公開による情報交換
- 授業公開後の研究協議
- 中学1年生及び高校1年生への英語学習についてのアンケート調査

2 成果と課題

[成果]

- 音読指導を通して、英文を読むことに自然に取り組めるようになってきている。また、ワードカウンターの取組を通して、読める喜びや語彙が増える喜びを感じている生徒も出てきている。
- 1分間トーキングのワークシートを活用した基礎的な会話の定着を図ることにより、英語で話すことの楽しさや喜びを味わうことができるようになってきている。
- 小中高の連携を通して、小学校の外国語活動を受けて、中学校における英語コミュニケーション能力の向上を目指す指導の道筋を理解することができた。

[課題]

- 「書くこと」の活動は、まだ十分な取組ができているとは言えない。生徒たちは「テーマ」が与えられても、「何をどう書けばよいのか」「何を伝えればよいのか」という表現方法や意欲が十分に育っておらず受動的である。今後、更なる指導の在り方や基礎的な表現をどのように生かせるかという手立てが必要となってくる。
- 生徒たちは英語の学習において、与えられたことに素直に取り組み、意欲的に英語を学ぼうとする態度が見られる。しかし、「発信力」が不十分で、積極的に「発信」できない生徒が多い。「発信力」を高めるためには、英語科にとどまらず、全ての教科において、「自己表現活動」を意図的に取り入れることが大切である。自分の思いを伝え合うことは、日本語においても英語においてもコミュニケーション能力の向上の柱である。大きな声で間違いを恐れず、自分の考えや思いを英語で発信できるような言語活動や指導方法の工夫を更に進めていきたい。

3 成果のあった取組事例

(1) 1分間トーキング

間違いを恐れず、英語で自分の思いや考えを伝えようとする意欲や態度を養うことを目標としている。積極的に英語を使い、伝える喜び（発信）や分かる喜び（受信）を味わわせたい。その手立てとして「基礎的な会話のワークシートの活用」を充実させ、発展的に様々なテーマに沿った1分間トーキングができるように進めている。1分間は生徒たちが英語の世界に入り込むための十分な時間と考える。

1・2年生においては、ペアでの会話を基本とした各ユニットの表現や既習表現を取り入れたワークシートを作成し、基本的な対話形式の定着を図っている。また、2年生ではワークシートに捉われない「テーマ」を発展的に与え、既習の基礎的な表現が自然に出てくるように取り組ませている。

(2) 音読指導

「聞くこと」「話すこと」の基礎として、音読プリントを活用している。音読によって英語を読むことに慣れ親しませ、正しい基礎的な英語表現を習得させる活動に取り組んでいる。

1年生では、基本文の読み書きを丁寧に繰り返した音読練習に取り組んでいる。

2年生では、ワードカウンターにより、30秒読みを定着させている。30秒内にどれだけ多くの単語を読みこなせるかを目標とし、個人練習やペア練習により、読んだ単語の数を増やす努力をしている。

(3) 表現活動(English Passport)

既習表現を活用し、「書く活動」に重点を置いた表現活動に取り組んでいる。「書く活動」は「話すこと」や「聞くこと」に比べると、英文表現としての正確さが必要となるために、生徒にとってはかなり難しいものである。しかし、辞書の活用やALTやJTEの支援により「英語で書けた」という喜びを味わうことができる活動と考え、定期的に取り組んでいる。

表現したものは“English Passport”として、ALTが添削し、コメントや評価をして生徒に返している。伝える相手がいることで表現意欲を向上させることもできる。ALTのコメントに返信するという形で表現を繰り返し積み重ね、伝え合う喜びや伝わる喜びを実感できるように配慮している。